

# デジタル推進！ 宇陀っ子の 今と未来を創る！

問 教育総務課 (☎ 82・3973 / IP ☎ 88・9259)

## 宇陀っ子の生きる力

## GIGAスクール構想

GIGAスクール構想に基づき、市立小中学校では令和2年度の3学期から、子どもたちに1人1台のタブレット端末を使った学習活動を行っています。

この端末はWi・Fiによってほぼ全ての教室で通信ネットワークに無線で接続が可能です。また、先生や子どもたちの端末の画面を教室の大型モニターに映し出すこともでき、家庭においてもWi・Fiに接続することで、学校の学習を継続することができます。

機器の整備が行われて半年が経過し、先生も子どもも機器の活用になじみ慣れ、授業ではもちろんのこと、端末を持ち帰っての家庭学習でも活用が進められています。また、新型コロナウイルスや災害などによって学校に登校することができない状況が発生したときのために、オンライン授業等によって学習を継続するための取り組みも進められています。

市では、こういったICTを積極的に活用することを通じて、子どもたちの情報活用能力を育成し、未来社会を「生きる力」を育む教育を推進しています。

中学校2年生、社会科の授業の風景。  
この日は社会の授業で重要な「資料」を生徒が手元で見ながら、まちづくりの工夫についてしっかり考える姿が見られました。





◀多様な考え方があるよね！  
(大宇陀小)

◀タブレットを通じて  
社会の授業中に資料  
を生徒に配布！  
(榛原中)

## 先生の声

**◎タブレット端末が導入されて良かったことは？**

**A1** 私は社会科の教師なので、資料を前のモニターだけではなく、生徒の手元で見せることができるのが良かったです。また、生徒が調べたことをスライドにしてグループで伝え合う学習をする場合、1人1台なのでパソコン室に行く必要もなく、自宅でも調べ学習が継続できるのがメリットです。

**A2** ※ロイノートを道徳の授業で活用することで、普段発表しない子どもの意見もみんなでも共有することができるので、自分の考えを出し合う学習活動での利用はとても有効です。また、意見の種類に合わせてカードの色を変えて、書き込むことで、子どもの意見の傾向が画面を見てすぐとらえることができ、話し合いがテンポ良く進みました。



▲こんなアイデアもありますよ！  
(室生中)

◀書き込んでみよう！(室生小)

**◎授業での活用方法を教えてください！**

**A** 美術の授業で子どもが作品づくりに行き詰まったとき、授業中には教科書で調べる方法しかありませんでしたが、今はネット検索をして、ヒントを得ることができました。子どもが興味をもっているときに、すぐに調べて作品に生かします！

※ロイノート・スワール  
教室内でインターネットを使って学習支援を行うプログラム・システム・アプリ。教師と子ども、また子ども同士が情報を共有しながら学習を行うためのアプリです。

**◎タブレット端末の授業での使い方や導入されて良かったことは？**

**A** 今回の授業は「大きな数のしくみ」の学習でした。直接数えることが難しい大きな数でも、ロイノートで図に書き込んだり分けたりすることで、考えやすくなることができました。学級みんなが意見を出し合い、考えを共有しながら学習を進めることができました。

## ～タブレット端末の様々な活用法～



小学校6年生では、海外の講師と教室をオンラインで結び、英会話の学習に取り組んでいます。画面上には講師の先生と、同じグループの4人の子どもが映っています。子どもたちは順番に、先生から話しかけられる英語を聞き取り、学習した英語を使って受け答えをしています。その日初めて会う海外の先生と自分の英語でコミュニケーションをする喜びを感じていました。



▶読み上げの速さも変更できます

「読み」が苦手な子どもが、自分の端末で、読み上げ機能のついた「デジタル教科書」を利用することが可能です。通常の教科書と同様の文字・画像を使用し、文字に音声をシンクロ（同期）させて読むことができます。読みが苦手な子どもが活用することで、教科書の内容の理解が進んだり、自信をもって音読ができるようになったりします。

## オンライン英会話

## デジタル教科書



新型コロナウイルスや災害などで臨時休校になっても、タブレット端末を活用し、学びが継続できるように、各校でオンライン授業の練習をしています。小学校低学年には操作が難しいように思いましたが、さすがは子ども、操作を覚えるのは早く、画面に映し出された友達の顔に手を振ったり、話しかけたりし、楽しみながら練習していました。

## オンライン授業の練習



▲家庭でのドリル学習の様子

▲オーイ！見えてるよ！

☆ドリル学習アプリを使えば、学校でも家庭でも学習を進めることができます。前の学年に戻って復習をすることもできます。宿題になることもありません。

☆オンライン授業の接続テスト  
学校でオンライン授業の練習をした後、次は家庭で実際に接続テストです。うまくつながりませんでした！画面にはマスクをしていない先生や友達の顔がいっぱい！思わず手を振ってしまいます。

## 家庭での使用



# 子どもの声

## ● 榛原中学校

◎タブレットで学習するようになって、良かったことは何ですか？

△先生が送ってくれた資料を手元で見ながら学習が進められます。  
家での学習も楽しくなりました。ドリル学習は自分のペースで進められるので、ゲーム感覚で暇なときにやってみよう、という気になります。

勉強がもっと楽しくなりました！



◎タブレットで学習するようになって、良かったことは何ですか？

△班のみんなで調べたことをスライドで作って、自分たちで発表し合うことができるようになったことです。  
自分ですぐに調べることができると、授業もわかりやすくなりました。

サイズもちょうど良い大きさです！



▶必要に応じて、ノートもとります



## ● 室生中学校

◎授業ではどのような使い方をしていますか？

△美術では、自分の作品を写真にとって、みんなで共有し鑑賞することもあります。体育では、自分の動きをビデオで録画し、その場で確認して練習に生かしています。タブレットを使う授業はとても楽しいです。

◎今後どのようにタブレットを活用していきたいですか？

△パワーポイントを使って、自分で資料を作って発表したいです。フォントの編集や文字に動きをつけたり工夫したいです。

パワーポイント勉強中です！



## ● 大宇陀小学校

◎タブレットを使った感想を教えてください！

△タブレットの操作は難しいけれど、使うことは楽しいし、英語の授業では英語がよくわかるようになりました。社会の授業でもタブレットで世界地図を見ることができ、夢中になってしまっています。

◎授業以外の使い方を教えてください！

△スムーズに使えるようにタイピングの練習や休み時間に授業でわからないことを調べたりするのに使っています。簡単なプログラミングもできるようになりました。

タイピングも早いよ



## ● 室生小学校

◎タブレットで学習するようになって良かったことは何ですか？

△タブレットを使って学習するようになって、授業が分かりやすくなりました。問題や資料を自分のタブレットで見たり、書き込んだりできるからです。

◎初めてタブレットを使ってみてどうでしたか？

△クラスの友達の顔が画面に出てきて、とてもうれしかったです。マイクのボタンを押すと自分の声がみんなに届くこともうれしかったです。使い方も簡単ですぐに覚えることができました。



算数の問題  
解けたよ！



▶タッチペンで書き込みもできるよ



▶こんな作品もあるんや！



美術の授業中



▲英語を使って、海外の講師とLesson！



▶休み時間もタブレットを使って調べ学習



# 「宇陀っ子」の夢づくりを応援

宇陀市教育長  
田淵泰央



「未来を託す大切な宝」である子どもたち一人ひとりの学びや生きる力、豊かな心を育んで『健やかな。宇陀っ子』の夢づくりを学校や家庭、地域の皆さまと共に守り、応援しましょう。」宇陀市教育大綱での金剛市長のあいさつの一節です。社会の在り方が劇的に変わる『Society 5.0時代』の到来、新型コロナウイルス感染症拡大など先行き不透明な「予測困難な時代」の中で、宇陀市の特色を十分に反映させた宇陀市らしさが生じる教育行政を進めるために、「宇陀市教育大綱」が策定され、めまぐるしく変化する社会情勢に対応できる人材を育てる教育に取り組んでいます。

来、新型コロナウイルス感染症拡大など先行き不透明な「予測困難な時代」の中で、宇陀市の特色を十分に反映させた宇陀市らしさが生じる教育行政を進めるために、「宇陀市教育大綱」が策定され、めまぐるしく変化する社会情勢に対応できる人材を育てる教育に取り組んでいます。

## 安心して通える学校づくり

近年、全国的に不登校やいじめ、虐待等の認知件数が増加しています。宇陀市においても同様の傾向が見られるようです。不登校という現象には、様々な要因があり、複合的なこともあります。学習面、友人関係、家庭環境、近年ではSNSに起因する問題など様々ですが、まずは学校が児童生徒にとって、通いたくなる魅力的な場所であれば、不登校者数は減少に転じるかもしれません。

そのためには、不登校になってからの事後対応ではなく、不登校者を生まない未然防止に重点を置くことが大切だと思います。「自分の存在がまわりから認められ、大切にされている」と実感ができる心の居場所となっているか、また、「友人や教師との心の結びつきや信頼感がある」と感じられる絆づくりの場となっているか等を常に問い直し、全ての児童生徒にとって、学校が安心感や充実感が得られる活動の場となるよう強く意識しながら進めていきます。

## 確かな学力を育む学校づくり

文部科学省の中央教育審議会は、文部科学大臣から「新しい時代の初等中等教育の在り方について」の諮問を受け、本年1月に「令和の日本

型学校教育の構築を目指して」と題し、副題を「全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現」とした答申をまとめました。

市では、この令和の日本型学校教育をいかに実現するか。UDAスタンダードを中心として、興味・関心や定着の度合いに合わせた個別学習と学級や班で練り合う協働学習の一体化した授業による学力向上を推進しています。

## 情報化社会に対応した教育の推進

GIGAスクール構想実現のため1人1台のタブレットと高速大容量の通信ネットワークが整備されました。Society 5.0時代に生きる児童生徒にとって、タブレットは、鉛筆やノートと並ぶ普段の学習に不可欠なアイテムとなります。学校のみならず、家庭や社会のあらゆる場面で、ICTの活用は日常のものとなっています。

現在、各学校では授業で利用したり、週末には持ち帰らせたりと活用していますが、まだまだ日常とまでなっていないのが現状です。全ての授業でタブレットを利用する必要があるとは思いますが、今後、全ての教員が必要に応じて効果的にタブレットを利用できるように進めていきます。

## 子どもの今と未来のために、より良い教育環境を

全国的に進む少子高齢化は、宇陀市においても例外ではありません。また、今後、少子高齢化のみならず、グローバル化や技術革新が急速に進み、今の子どもたちが社会に出て活躍する頃には、現存する職種の約半分をAI（人工知能）が取って代わっているかもしれないという予測もされています。

このように予測困難なこれからの時代をたくましく生きていくために、子どもたちは、先生の指示を待つだけの受け身の学習ではなく、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考えて行動できる力が求められています。そしてこのような主体的に学ぶ力が、将来、よりよい社会や人生を切り拓くための原動力になると考えています。

しかし、このような力は決して一人で身に付くものではなく、友達や先生、地域の人々など様々な人との関わりを通して育まれていきます。このように考えると、時代の変化に合わせて、学校を適切な規模や配置で整備することは、子どもたちの「生きる力」を育む環境をつくる上でとても重要なことだと言えます。

市では、平成31年度に、宇陀市学校規模適正化検討委員会（以下「検討委員会」）を設置し、2年かけて望ましい学校の規模や配置について議論してきました。

検討委員会では、児童生徒の学習状況などを踏まえるとともに、市内全ての学校・園の保護者と教職員を対象に、アンケート調査を行いました。また、アンケート結果を踏まえた中間報告会を各地域で行い、市民の皆さんから直接ご意見をいただくことができました。

以上のような経緯を踏まえ、令和3年3月に検討委員会から市立小中学校の規模や配置の適正化に関する基本的な考え方について答申をいただきました。

市では本答申に基づき、学校適正化の具体的な方策や教育内容の充実について審議する体制を整え、今後の宇陀市の学校の在り方を検討し、決めていく予定です。

未来を担う宇陀の子どもたちのために、どのような教育環境を整えていくことが望ましいのか。様々なご意見を伺いながら進めていきたいと考えています。

